

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2005-506380(P2005-506380A)

【公表日】平成17年3月3日(2005.3.3)

【年通号数】公開・登録公報2005-009

【出願番号】特願2003-538120(P2003-538120)

【国際特許分類】

C 0 7 C 249/16 (2006.01)

C 0 7 C 251/86 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 249/16

C 0 7 C 251/86

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成17年10月3日(2005.10.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

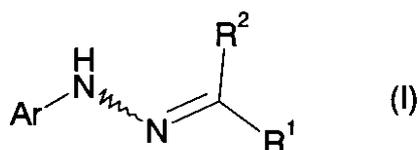
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

式(1)：

【化1】



(式中、Arは、場合によっては置換されている芳香族炭素環若しくは複素環を示し、R¹及びR²は独立に水素、C₁₋₁₀アルキル、C(O)C₁₋₁₀アルキル若しくは場合によっては置換されているアリールを示し、但しR¹及びR²は共に水素ではないことを条件とする)

の化合物の調製方法であって、

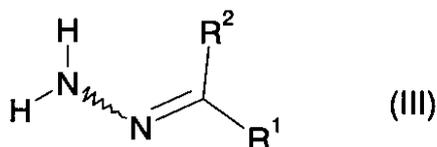
Pd(II)塩触媒、配位子及びI族若しくはII族金属水酸化物塩基の存在下で、7よりも大きなpHにて、水性条件下で、式(II)：

【化2】



(式中、Arは、式(1)に関して規定したものと同一であり、Xは残基を示す)の化合物と、式(III)：

【化3】

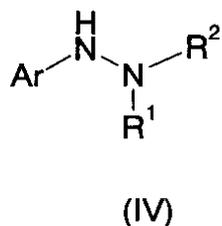


(式中、 R^1 及び R^2 は式(1)について規定したものと同一である)の化合物とを一緒に反応させることを含む方法。

【請求項2】

さらに、前記式(1)の化合物を式(IV)：

【化4】



(式中、 Ar 、 R^1 及び R^2 は、式(1)について規定したものと同一である)の化合物に加水分解することを含む請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記 Ar は、場合によっては置換されているフェニルである、請求項1又は2に記載の方法。

【請求項4】

前記 R^1 及び R^2 は、独立に C_{1-8} アルキル、フェニル又は1種以上の C_{1-8} アルキル、ハロゲン、シアノ、ニトロ、 C_{1-8} ハロアルキル、アクリルアミノ、及び C_{1-6} アルコキシ(それ自身は、場合によっては C_{1-6} アルコキシで置換されている)で置換されているフェニルである、請求項1～3のいずれか1項に記載の方法。

【請求項5】

前記Pd(II)塩触媒は、塩化パラジウム又は酢酸パラジウムである、請求項1～4のいずれか1項に記載の方法。

【請求項6】

前記配位子は、2、2'-ビス(ジフェニルホスフィノ)-1,1'-ピナフチル又は(S)-(-)-2,2'-ビス(ジフェニルホスフィノ)-1,1'-ピナフチルである請求項1～5のいずれか1項に記載の方法。

【請求項7】

前記塩基は、水酸化ナトリウム、水酸化カリウム若しくは水酸化リチウム又はマグネシウム、カルシウム若しくはセシウムの水酸化物若しくは酸化物である、請求項1～6のいずれか1項に記載の方法。

【請求項8】

pHは、9よりも大きい、請求項1～7のいずれか1項に記載の方法。